【ねがいましては】

平成19年11月26日 第205号 KYOWA SCHOOL

「誇り」

競う、どちらかが勝ちどちらかが負ける。メディアの世界を眺めてみると、そのほとんどが『勝者』を取り上げています。視聴率を考えればあたり前な構成でしょう。練習を重ね、家族からの愛を存分に感じ、頂点へと登り詰める。 人間頑張れば、やれないことはない・・・・・。

宝くじに当たるくらいの、ほんの一握りの人々の成功を取り上げます。人間ドラマがそこにはあります。それを見る人々に夢を与えるには良いことなのかもしれません。

その反面、負けた側のドラマを取り上げるものはわずかであるといえるでしょう。どう見ても圧倒的に過半数以上を占める敗者・・・。多数派の彼らのドラマこそしっかりと受け入れるべきものと思えます。負けた後、どのように彼らは過ごしたか・・・。私たちの生活の中では、勝ちよりも負けのほうが多いのです。

私たちは知らずのうちに、勝ちのみを意識し生活しています。常に目標へ向かっての意識ですので仕方がないとも 言えます。

次の2者を掲げてみます。前者、成績トップでありながら、周りの人たちへ思いを配らない。後者、成績ビリでありながらも周りへの笑顔を絶やさない。我が子から笑顔が消えたとき、どれほどの寂しさを覚えるでしょう。子どもたちから笑顔を取り去ったとき、どれだけ社会がすさんだ風景になってしまうのか。

我が子がテストで100点をとって帰ってきた。我が子が帰り道、路上にころがる『ゴミ』を拾いながら帰ってきた。我が子が定期テストで1位をとってきた。我が子が交差点でこまっていた老人に手を差し延べた。

前者・・幼児期から勉強とは競うことという意識を持って成長してきました。徹底的に勉強をしてきた彼の脳裏には、常に成績が意識されます。当然といえば当然でしょう。

後者・・幼児期からご両親の寛大な心根に包まれながら育ちました。ご両親の口癖「いつも弱い者(敗者)の気持ちを考えなさい・・・。」やがて彼は学校へ入り、昼間を学校で過ごすようになります。彼の心の中に、ある『こころ』が芽生え始めます。「なぜAちゃんはテストで0点をとっても笑っていられるのだろう。」「なぜBちゃんはかけっこでビリになっても笑っていられるのだろう。」「なぜCちゃんはお母さんがいなくても笑っていられるのだろう。」「なぜDちゃんは、『いいよ』と言ってゆずってくれるのだろう。」

そしてこのような子たちにも心を向けます。「Eちゃんは0点とって悲しそうにしている。」「Fちゃんは運動会でビリとって元気がないなあ。」「Gちゃんはお小遣いが少ないといってぶつぶつ文句を言っています。」「Hちゃんはテスト順位が下がったと言ってイライラしている。」

勝つこととはどういうことなのか、というより負けるということはどういうことなのかを優先して見つめさせようとするご両親の考え方は、その子にやがて『生き方』を見つめさせることになりました。負けても負けても前向きに生きてゆこう。これが彼が自分から見つけた生き方だったのです。あの子たちが笑っていられる『魅力』に近づきたかったのです。

世の中、圧倒的に負けるほうが多い、それでもたくましく生きている人たちって、なんて魅力的なのだろう。

今年、小学校1年生たちがいつになく多く入ってきました。新入生たちが感じる学校での不安、彼らは大人たちが 想像する数倍の恐怖心と戦っています。何が良くて何が悪いのか、まったく先がわかりません。この世の中は何が起 こってもおかしくない世の中だ。そう思う子が多いのです。いつも目の前のことしか考えられません。いつも自分は いったいどうなるのだろう。と、不安なのです。そのよい例が、地下鉄に乗せると、降りなくてもよい駅に着き、多くの人々が降りようとし、自分もその波に押されて出されそうになると、子どもは必死に出まいとして抵抗します。その必死な姿はまさに『子ども』・・・。やがて時が過ぎ、彼らを襲う不安・・・成績です。

私のこの教室での口癖・・・「精一杯が100点、今かんちがい(バツと言いません)が出たでしょ、でも精一杯にやってたよね、だから○○ちゃんは100点ですー!」、子どもたちは100点という評価に安心を覚えます。確かに大人でさえ、『100点』と言われると気分は悪くありません。その言葉がけが授業に変化を与えました。みんなバラバラなことをしているのですが、シーンと張り詰めた空気が立ち込めます。皆、精一杯なのです。定期テストが近づき、早くに顔を覗かせた中学生たちも驚きの表情を見せます。そのときの心に点数をつけるのです。

子どもたちは点数によって差別化されることをとても嫌います。それより今の自分を見てほしい、今の自分を評価してほしいと感じています。『今』を精一杯に生きることの気持ちよさを知ったとき、『これが勉強なんだよね』というこたえを見つけます。結果は余り考えたくない。それより『今』が楽しいよ。『今』元気でいられることが、こんなに気持ちのいいことだったんだよね。

このことは大人でさえ忘れがちな『日々の感謝』につながります。今日一日、生かされてよかった。今日一日、無事に終われた。ありがとう。その謙虚な気持ちを子どもたちは感じてくれているのかもしれない。

そんなあなた方を誇りに思います。ありがとう。